

恒久対策までの現場対策案

平成17年8月22日

■ 第6回技術部会における意見を踏まえた恒久対策着手までの現場対策案

【MEMO】

1 第6回技術部会における現場対策に係る意見

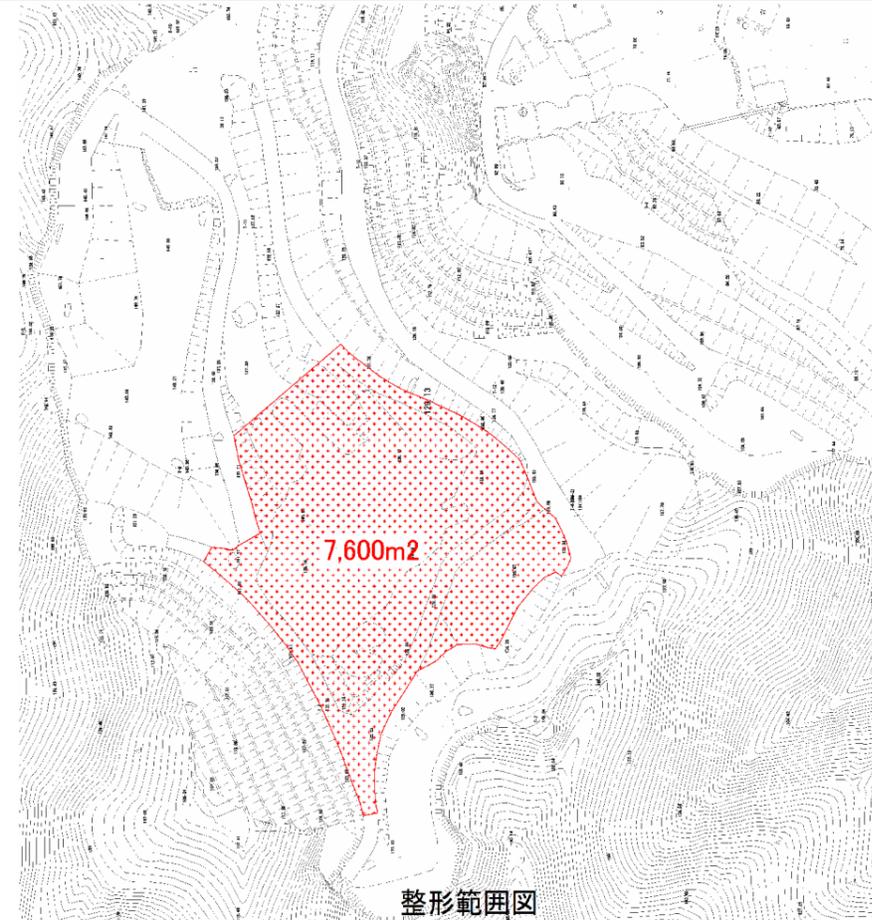
意見要旨
① 現場の状況を見ると上部の廃棄物を取り除いた部分が沈下してきていることから、 監視だけでなく流出防止対策が必要 ではないかと思われる。
② 法面と廃棄物の厚さがないため、場所によっては一部法面に変色が見られ、硫化水素の影響の可能性があるので、 法面についてはきっちりした対策が必要 だろうと考えられる。

2 恒久対策着手までの現場対策案
別添資料参照

表面水対策案1

最上部整形工

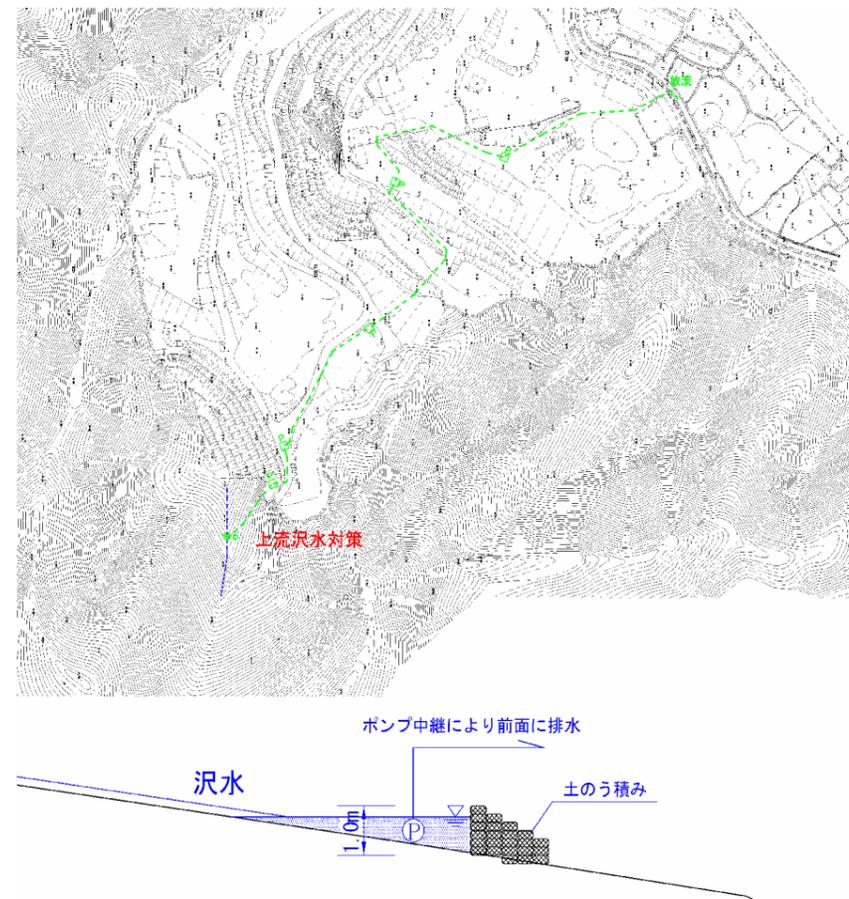
雨水侵食により、廃棄物が露出している部分がある。沢側への雨水流入を回避するため、最上部の整形を行うとともに、廃棄物露出部分に覆土を施し対応する。



上流沢水対策案

上流沢水対策工
(ポンプ排水)

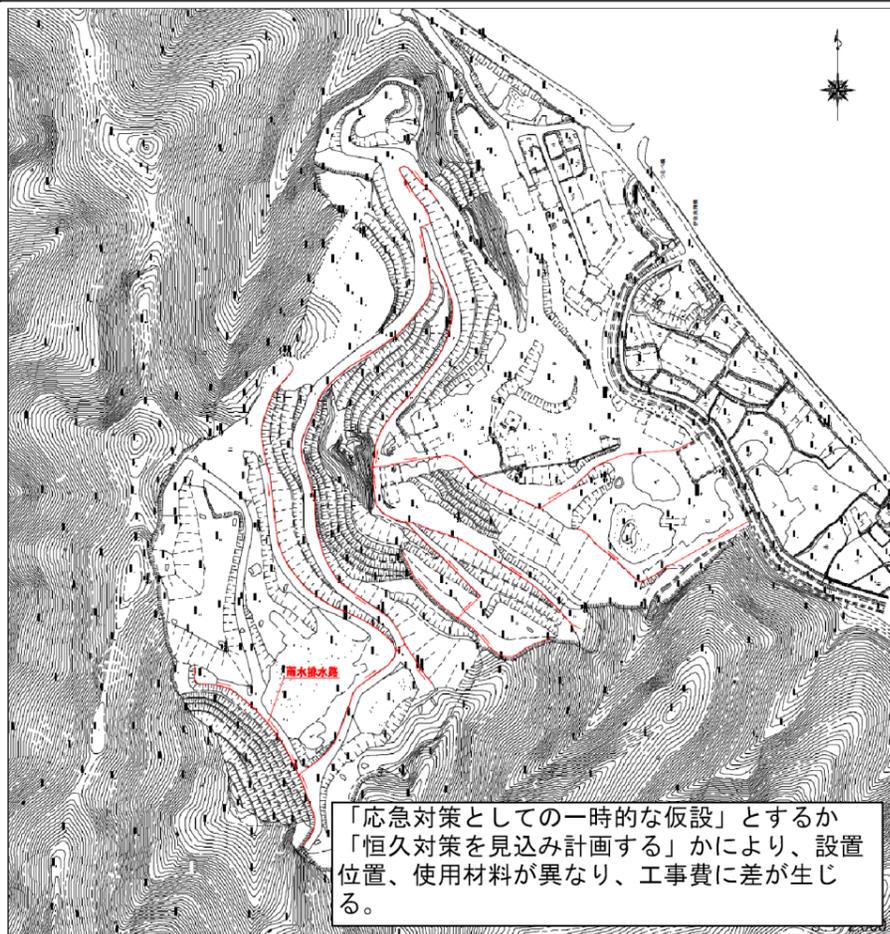
場内に流入する沢水をポンプで揚水し、廃棄物下を通すことなく、直接原川へ排水する。



表面水対策案2

雨水排水路整備工

場内の表面水を効率的に排除し、雨水による表面侵食を防止し、廃棄物の露出を防ぐ。



「応急対策としての一時的な仮設」とするか「恒久対策を見込み計画する」かにより、設置位置、使用材料が異なり、工事費に差が生じる。

急崖法面对策案

大型土のう工

場内北側の法面は崩壊により廃棄物の流出や粉塵飛散などの汚染拡散リスクが発生する。また、崩壊により流出した土砂の影響により、原川に面する不安定な擁壁へ影響が及ぶ恐れがある。これらを抑制するため、崩壊危険エリアの前面に大型土のうを設置する。土のうには、最上部整形工で発生する残土を活用する。

